



木曽林務課だより



12月



今月の木曽林務課だよりは、長野県森林づくり県民税の事業と緑の募金のご紹介をします。どちらも木曽の明日を支える小学生や高校生が大活躍！これをきっかけに、森林や林業を身近に感じていただけることを願っています。

南木曽小学校3年生が木曽ヒノキでベンチを作りました (11月15日)

南木曽小学校の3年生約40名が総合的な学習の時間を利用した木工教室で、木曽産のヒノキを使ったベンチを作りました。この教室は、長野県森林づくり県民税（森林税）を使用した木工体験活動支援事業で、子どもたちに地域の木材を使った木製品を作り上げてもらい、森林の役割や木材利用の重要性について理解を深めてもらおうという活動です。

先生はウッディ・クリエイト・ナギソ（WCN）のみなさん！南木曽町で木材関連の事業をされている方々です。町の主な産業である木材関連産業の振興を図り、明るく豊かで活力のある町づくりをすることを目的に活動されています。今回はその一環として、地元子どもたちに地元産木材に興味を持ってもらおうと木工教室を開催しました。



力を合わせて制作！



仕上げのやすりがけ

子どもたちは6つの班に分かれて先生たちの的確な指導のもと、友達と協力しながらひとつひとつ丁寧に作業をしていました。みんなインパクトドライバーを使って、素早くビスを打ち込んでいて感心しました。作業すること数十分、きれいなベンチが出来上がりました。子どもたちはみんな嬉しそうに完成したベンチを眺めていました。完成した作品は町内の観光施設や公園などに置いて、観光客や町民の方々に使ってもらう予定です。

木曽青峰高校生から緑の募金が届けられました (11月14日)

木曽町にある木曽青峰高等学校の環境福祉部の13名が木曽地域振興局林務課に来て、部長さんから林務課長へ募金が手渡されました。募金額は、21,802円。これは2月の専門科展や7月の文化祭で高校生が地道に校内を回って集めたものだそうです。

緑の募金は、各町村・団体で集めていただき、木曽郡緑化推進委員会でまとめられ、それが長野県緑の基金へと送られる仕組みですが、募金額の8割が集めた地域に戻ってくるようになっています。昨年募金していただいたものは、木曽郡植樹祭、木曽地区みどりの少年団交流集会、絵本原画展の開催などに活用されました。

実際に募金を行った生徒さんたちからは、「声をかけた時にいろんな人が募金してくれてよかったし、たくさん集めた募金が役に立つのはうれしい。」「積極的に文化祭などで募金活動をできてよかった。ずっと募金をしてくれる方が多くてうれしかった。」との声があがりました。

募金を集めていただいた生徒さん方、また、募金していただいた皆様、ありがとうございました。

